

大分大学教職大学院

教職大学院関係者と大分県内指導主事とが共に学ぶ研修の実施

(研修事業名：「ミドルリーダー・スキルアップ・セミナー」)

研修の目的：

「学び続ける教員像」の実現に向けて、教職大学院には今後ますます地元教育委員会や学校等との連携・協働が求められる。その実現に向けた取組として、今年度も大分県教育庁と連携し、指導主事等に有益な研修動画を提供することを目的とした。

研修の内容：

大分県教育庁教育人事課の意向を確認し、「地域とともにある学校づくり」「教職員組織を束ねる学校経営」「教職員の自律性を高める校内研修の在り方」の3研修を制作した。大分大学教職大学院の教員が専門性を生かして制作したものである。

日程・参加者等：

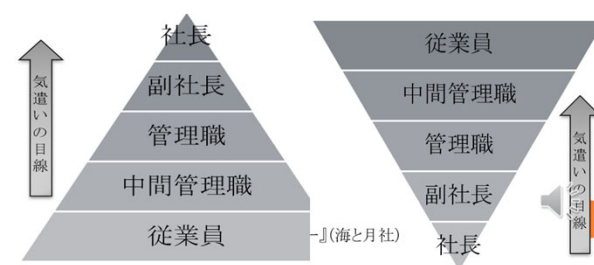
令和7年11月から令和8年3月までの5ヶ月間で視聴できるように、3講座を企画・収録して提供した。それぞれ約30分の動画である。今回は、学びのポイントを明確にするために、モデレーターを立てて、講師との遣り取りを行った。受講者数は教職大学院教員17名、現職院生8名、指導主事等142名であった。(受講延人数はこの3倍)

成果と課題：

大分県教育庁教育人事課との連携により、県内の指導主事・社会教育主事等の参加(悉皆研修)が得られた。受講者から「単調になりがちなオンデマンド研修であるが、講師間の遣り取りや繰り返し・確認等で、飽きずに学べた」「今後の研修の企画・立案に参考にしていきたい」等の感想を多数もらった。



清國祐二教授



「地域とともにある学校」を考える際に、「郷土愛・地域愛」が語られる場面がある。この「愛」をサーバント・リーダーシップの視点で読み解いた。

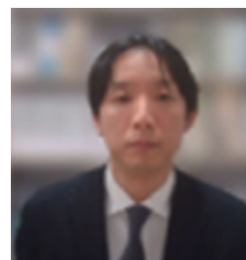
(4) 芯の通った学校組織について
芯の通った学校組織とは

・学力・体力向上等に向けて学校の具体的な目標や取組が、その達成のために学校全体で検証・改善を繰り返す学校



山本遼准教授

学校経営(マネジメント)という言葉は定着してきたものの、具体的な学校のあるべき姿が浸透しているわけではない。そこで、大分県の教育政策とも絡めて、改めて学校経営を考えた。



大島崇准教授

教職員が、教育活動への喜びや働きがいを生み出すためには自律性が欠かせない。そこで、自律性を発揮しやすい校内研修の改善の視点を示した。特に「事実解釈型」に注目し、教室で起こっている事実の解釈を交流することで、授業を見る目の「拡幅化」を図ることの重要性を示した。